



コロナ禍と練習場

今年3月以降、新型コロナウイルスによって、日本中いや世界中が大パニック状態です。日本においてもいろいろな職場において大変なことになっております。毎日我が身がかからぬようにと祈っているところです。

その中で私たちガイアの響は4月以降、ホームグラウンドの音楽室が利用できなくなり、やっと9月からと思いきや、3密のために定数12名までのことで、約40名いる全員が利用できなくなりました。今まで練習には金曜日の19時から22時までの3時間、土曜日の9時から12時までの3時間（1ヶ月当たり8回）を利用していました。

11月よりやっと舞台のみの利用ができるようになったのですが、同時に音楽室も同じ時間利用しなければなりません。音楽室1時間750円×3時間＝2250円、舞台のみ1時間1500円×3時間＝4500円ですので、1日練習すると6750円になります。月に8回利用するとなると6750円×8日＝54000円となり、大変です。それも舞台が利用できないときはだめになりますし、その上4月より10月までいろんなイ



ベントが中止になり何の目標も無く練習することもできないので、8名が退会してしまい、淋しいばかりです。他町では、町や村の施設を無料で利用できているのでうらやましい限りです。

一日も早くコロナ禍が世界中から終わり、元の生活にもどりますように願っております。私たちも一日も早く何も考えず練習でき、いろんなイベントが復活する日を首を長くして待っています。

粕屋太鼓ガイアの響 久我 純治

糟屋地区身障者会 一泊研修旅行に参加して

11月9、10日と山口、萩の一泊研修旅行に介助として参加しました。身障者会もコロナの影響で行事が中止になっている中で、ようやく研修旅行が実現しました。総勢21名のうち粕屋町からは5名の参加でした。今回はお互いに高齢のためかご夫婦での参加が目立ちました。

古賀、二日市線が渋滞することもなく早く集合できたため、9時半出発の予定が9時出発になりました。それだけ皆さんは楽しみにしていらした様子でした。二日も天気にも恵まれ、ガイドさんもコロナのため前を向いての案内でしたが、座席も二人席を一人で使いましたが、車中は会話もなく静かなものでした。少人数のため、私も皆さんが降りられるのを全員見届けることができて、バスに乗りされると手の消毒をさせてもらいました。

研修のコースでは結構階段や歩く所が多くて車椅子一台を持って行きましたが、疲れたときに乗り、椅子代わりに使う程度でした。

また地域共通クーポン券をいただいたので、バスの中はお土産が満杯でした。

次に会うのを楽しみにお別れました。

七色の会 松永 禮子



緊急避難の体験から

これまで経験したことのない強い勢力を保って台風10号が九州に接近するとの予報。家の外にあるものは片付け、窓は養生テープを貼り、雨戸は閉め切って暴風対策をし、それでも不安で初めて避難することになりました。

いろいろ準備し粕屋ドームに出发。入口ではコロナ対策をし、メインアリーナに入ると段ボールベッドの部屋がたくさん並んでいました。指定された番号の部屋は2畳くらいの部屋で、中にはベッドがありました。

夕方3人のひとり暮らしの高齢の人に会い話を聞きました。民生委員さんから連絡があり避難したそうです。ドームまでの交通手段がなく、ふれあいバスに乗って来た人、知り合いの人に乘せてもらった人、荷物があるので大変だったそうです。役場の方でひとり暮らしの人は避難先へ送ってほしいと思いました。

朝9時過ぎ家に帰りました。幸い周りの家も被害がなく一安心。これから出会うかもしれない災害時の避難に対して考えさせられました。

友愛訪問の会 永井 房子

コロナウイルス禍に
向き合って

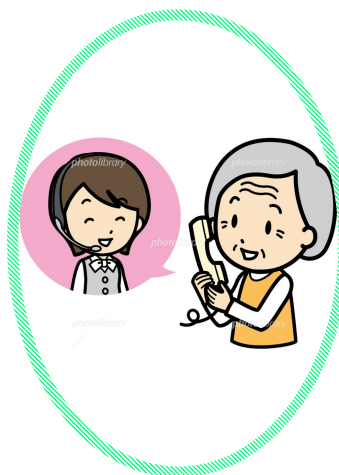
しおんの会は一人暮らしの高齢者や、日中一人で生活されている方の安否確認のために、対話を通じた電話訪問活動をしています。

新型コロナウイルスが世界中に感染拡大し、第3波が猛威を振るっており、その環境の中、一人暮らしの高齢者の方は3蜜を避け外出に注意を払って、家庭内での生活がずっと続いております。

利用者に電話訪問をする「待っていましたよ」や「話ができてよかった」と、うれしそうな声で日常のこと、子どもの様子など、小一時間お話しされる方もいらっしゃる。寂しい気持ちや精神的な落ち込みもあると思います。

一日も早いコロナウイルスの終息を祈りつつ、しおんの会の活動を続けてまいります。

しおんの会 宮原 優子

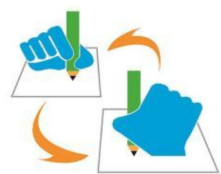
コロナ禍による
マスクの壁

新型コロナウイルス感染拡大防止に欠かせないマスクも日常化してきました。聴覚障がい者にとってはマスクで表情と口の動きを読み取るのが困難ではと思つて、「マスクのままで大丈夫？」と尋ねました。感染の広がる中、外しとは言えなかったのでしょうか！「大丈夫！！」と返ってきました。

聴覚障がい者とのコミュニケーション方法としては手話の他に、筆談、空書、身振り、指文字等ありますが、言葉を読み取るための手段の一つである口がマスクによって見えなくなり、大切な情報が理解しづらくなっているようです。

コロナの終息の見通しも立たない今、もっと聴覚障がい者に歩み寄っていききたいと思います。

スーパー、病院、どこでも筆談と指さしでやりとりができます。



筆談で対応します



手話でコミュニケーション
できる人がいます

聴覚に障害のある人とのコミュニケーションを深めるのに役立ててほしいです。

手話の会 野田 京子

久しぶりの
「はげみ会」

令和2年10月22日（木）、久しぶりに「はげみ会」が開催されました。長いお休みの間、会員の方々の体調を心配しておりましたが、頑張つて6名の方が元気に参加してくださいました。

今までのように体操が終われば楽しくお話ししながらお昼ご飯を食べゲームを楽しむということができませんでしたが、午前中のリハビリ体操だけでもできたことをうれしく思います。

各地でコロナ感染者が増加しておりますが、インフルエンザにも十分注意しながらマスクに手洗い、うがいと対策はしっかりととして、一日も早い普通の生活ができることを願うばかりです。

七色の会 塚本 澄恵

編集後記

、今号はコロナ禍との厳しい関わりについての寄稿が集まりました。新しい生活様式に移行する参考になるものかもしれません。お忙しい中での原稿の提出をありがとうございました。（M）